

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)	令和5年度 第1回 川西市健康づくり推進協議会		
事務局(担当課)	健康医療部 保健・医療政策課		
開 催 日 時	令和5年5月 11 日(木)午後2時		
開 催 場 所	川西市役所4階 庁議室		
出 席 者	委 員	<p>出席 織田委員、林委員、松浦委員、樋口委員、佃委員、岡崎委員、平岡委員、清水委員、日下委員、福井委員、武内委員、寶田委員、黒山委員、松隈委員、釜本委員、中村委員、山田委員</p> <p>ウェブ出席 森田委員</p> <p>欠席 西口委員、臼井委員、蜂須賀委員、高瀬委員、中澤委員、ラローズ委員</p>	
	そ の 他		
	事 務 局	<p>健康医療部: 阪上部長、松本副部長、塩川副部長 保健・医療政策課: 西村課長補佐、中嶋主任 保健センター: 坂上所長、森所長、北田副主幹、曾野歯科衛生士</p>	
傍聴の可否	可	傍 聴 者 数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	1 開 会 2 会長・副会長の互選について 3 次期計画について(諮問) 4 議事 (1)川西市健康づくりについてのアンケート調査報告書について (2)次期計画の基本的な考え方について 5 その他 6 閉会		
会 議 結 果	別添「審議経過」のとおり		

審議経過

1 開会

開会の挨拶

自己紹介（ウェブ出席者については、疎通及び本人であることを確認）

2 会長副会長互選

織田委員を会長に、林委員を副会長に選出、挨拶

3 次期計画について（諮問）

諮問書を副市長より会長に手交

4 議事

（1）川西市健康づくりについてのアンケート調査報告書について

川西市健康づくりについてのアンケート調査報告書について事務局より説明

【質疑・応答】

（委員）

今回は住民2,000人を対象にアンケートをしているが、川西市には16の小学校があり、14のコミュニティがある。1小学校区あたり125名程度の意見というのが、評価になり得るのか分かりかねる。

市に対しての要望事項・改善事項をまとめられているが、該当の部署に改善を依頼しなければならないと思う。回答者へのどのようなフィードバックを考えているか。

（事務局）

要望等については、各部署への情報共有を今後行う予定である。アンケートは無記名のため、回答者へのフィードバックはどこまでできるのかと思っている。

（委員）

無記名ではあるが、市の広報などにアンケート調査の結果を載せる必要があるのではないか。

（委員）

アンケート調査結果の公表に関しては事務局で考え、何らかの形で公開してもらえたらと思う。

（委員）

アンケート調査結果を次期計画にどう反映させるかについては、諮問事項として、健康づくり推進協議会でしっかり審議をして決めていくものになると思う。アンケート調査の大まかな結果については、お知らせする手段があるのであれば、事務局で考えていただくのがよいと思う。

（委員）

健康づくり推進協議会での審議内容については、議事録などの形で市民の方々に公表できると思う。

（委員）

計画案が出たときにパブリックコメントが開催されるので、アンケート結果を公表するタイミングとしては、そのタイミングもあるのではと思う。

（委員）

事務局でも参考にさせていただけたらと思う。

(委員)

運動のことで、プール開放について、各校区の実情に応じて開くことになっているが、暑さ指数で開放できないところがあり、毎年の悩みである。よいと思っているのは、キセラ川西せせらぎ公園を子どもの遊び場として無料で開放していること。公園が多くない校区もあるため、一般には貸さずに子どもだけに開放するという方向づけをしていただくことが子どもたちのためになると思う。

(委員)

以前からプール開きは午前中の段階で暑さ指数が上がってできなかった。今の猛暑では屋内プールでないとできないのか、というところがある。チケットを配ってPTAのほうから市民プールへの利用を促すというやり方を行っている小学校もある。公園については、例えばミストがあれば温度が下がって夏場の暑い時でも公園で遊ぶことができると切実に感じている。コロナの影響もあり、経年で見ても子どもたちの体力数値は下がっている。今後、学校の部活動が地域移行になっていく中で、子どもたちの運動がどうなるのか心配に思っている。

(委員)

アンケート結果の指標の達成状況を見ると、施策が機能しなかったと思われても仕方がないのではないか。できなかったのは何故なのか、どう変えたら良いのかという検討をすべきだと思う。

(委員)

市民の年齢構成と比較して、アンケートを答えていただいた方の年齢構成に偏りはありそうか。

(事務局)

アンケートに回答された方の年齢分布と市の年齢構成はおおよそ同じであるが、20代、30代の回収率はやや低いため、若い年代に関してはアンケート集計として回答数が少ないという印象である。

(委員)

アンケートをもう少し簡素化できないかと思う。

(委員)

P.94～97で、男性20代の「絶望的」「何が起ころうとも気が晴れない」と回答している人の割合が高くなっているのをそのまま受け取ると、一定数うつ状態の方がいると見受けられるが、市としてどのように考えているか。

(事務局)

我々の部署においても自殺対策の事業やホームページへの相談先の掲載、民生委員さんとの関わりを通じて相談につなげていきたいと考えている。

(委員)

行政のやることとしては、まずは相談窓口の充実があると思う。県の住民アンケートでは、若い世代が、うつ病の症状が疑われる、あるいは自殺を考える時に、相談をしようとは思わない、という結果が出ており、大きな課題となっている。他人に相談をしようと思わない方へどうアプローチするのか、幼少期から相談に抵抗を持たないようにすることや精神疾患等の知識の普及というのは一つの方法としてあると思う。

(委員)

学校現場でもいのちの教育はしており、積極的にスクールカウンセラーを利用してよいという話もしている。ここ10数年で心療内科に通われる方というのは増えている感覚はあり、引きこもりの子どもが通えるようこども若者相談センターもあるので、そこがもっと広がればよいと思う。

(委員)

心についても計画で取り上げていただきたい。

(2) 次期計画の基本的な考え方について

次期計画の基本的な考え方について事務局より説明

【質疑・応答】

(委員)

基本方針5の「川西市立総合医療センターを中心とした地域包括ケアシステムの構築」に違和感を感じた。地域包括ケアシステムというのは、高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう住まい・医療・介護・生活支援が一体的に提供される体制のこと。総合医療センターは構成要素の1つであり、「中心」ではなく「中核とした地域医療の構築」という表現が適切ではないか。

(事務局)

ご指摘のとおり。あくまでセンターは医療の部分を担当する形であり、検討する。

(委員)

地域包括ケアシステムと川西市立総合医療センターという言葉を入れ替えたらいいのではないかと。もう少しよい表現があるかもしれないので検討ください。

(委員)

アンケート結果から、オーラルフレイルの認識度がかなり低いと感じた。8020などは一度聞いた覚えやすいが、フレイルは言葉自体が分かりづらいため、文言を市民に浸透させる必要があると思う。アンケートについては、15万人都市でこのサンプル数は統計的に有効なのか伺いたい。回答に対するインセンティブがあったり、もっと簡潔にすればよいと思うが、事務局ではどう考えているか。

(事務局)

サンプル数に関しては、許容誤差が5%、信頼度が95%になるよう調査しているので全体数は統計上問題ないが、男女別、年代別で考えると、アンケート集計として回答数が少ないと考えている。アンケートの項目数については、次回実施する際には今回のご意見を踏まえ、ネットなどを利用した回答方法や質問数を検討したい。

5 その他

健幸マイレージ事業について、令和4年度をもって終了し、令和6年度以降の取組について検討中と事務局より説明

【質疑・応答 特になし】

6 閉会

閉会の挨拶